

平成20年度 LCA国際小学校 学校自己評価

学校教育目標	重点目標(中・長期目標)	総合評価					
◆社会の一員として個性を生かして、社会に貢献できる人間の育成 ◆世界を舞台に活躍できる人間の育成 ◆生きることの素晴らしさを知った人間の育成	教育理念を具現化した学校づくり	外国人教師、スタッフも含め、教育理念は浸透したと思われる。今後はその理念を日常の授業や児童指導にどう生かすかである。					
	今年度の重点目標	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
	教師スタッフがLCAの教育理念を理解し、教科の指導に当たる	理念の理解はできてきた。教科指導に生かす部分は今後に期待される。		○			教育理念が生かされる授業を身につけるための研修を強化する
	教師スタッフがLCAの教育理念を理解し、児童指導に当たる	担当が外国人であることもあり、校長・副校長を中心に日本人が行っていることがまだ多い		○			教育理念が生かされた児童指導の仕方身につけるための研修を強化する

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育活動	教育課程	学習指導要領に準じながら英語力を伸ばすカリキュラム作り	各教科、文科省の基準の授業数を確保しながら、英語力を伸ばせたか。また、総授業数が多いことに問題はなかったか。	英語は予想以上に力をつけている(保護者アンケート:設問A参照)	○				外国人教師が日本の学習指導要領の趣旨をより良く理解することで学習の公立をあげる。また、そのための研修をする。
		英語で指導する教科があっても、国語力や日本の文化の習得がきちんとできているか。	国語の授業数は国語力を伸ばすのに十分なだけ確保できているか。また、国語の力はどうか。	全学年にわたって学習指導要領の基準より多く確保できた。		○			国語の指導法の研修をする。作文指導法の徹底を図る。
	学習指導	クラスの全員が感じたことや意見を言える授業	恥ずかしかったり、間違えを恐れて意見を言えない子がいないか	低学年では明らかな成果が見られるが、高学年になると、やや発言を躊躇する場面が見られる		○			正解・不正解がない発問を増やし、発言する機会を増やす授業の徹底を図る。
		「なぜ」と考える力を育てる	授業中、なぜだろうと思ひ、いろいろ考える場面があったか	模擬授業は示したが、実際の授業ではまだまだ課題が多い		○			求める授業のあり方を、授業をみることや児童の立場になって授業を受けてみることで身につけていく。
学校運営	地域との連携	地域と連携し、社会科見学を実施する。また、実際的な話を聞くために、地元の方を講師として招く	地域の方との連携で効果的な指導ができたか	2学期に初めて、地域の方の協力で社会科見学が実現した。今後一層連携をしていくよう取り組みたい			○		地域の方にLCAの教育を知っていただくための情報をより多く発信する。
		LCAの教育理念を理解するための研修 新しい学力観に基づいた授業の研修 自立した子を育てるための野外活動研修	研修は適切に行われたか、また、効果はあったのか	教育理念の研修、授業研修、日本の文化と教育についての講和、野外活動研修などを行ない成果あげた。		○			LCAの理念に沿った指導のできる教師を増やし、教師同士でLCAにふさわしい教師を育てられるよう仕組みを作る。